リハビリテーション学部

2025年度学校推薦型選抜試験

小　論　文

注　意　事　項

1　小論文の問題冊子には、課題と下書き用紙がある。白紙・空白の部分は下書きに使用してよい。

2　別に解答用紙１枚があり、解答はすべて解答用紙の指定欄に記入すること。指定欄以外への記入はすべて無効となる。

3　**解答用紙の所定欄に受験番号を記入しなさい。氏名を記入してはならない。なお、記入した受験番号が誤っている場合や無記入の場合は、小論文の試験が無効となる。**

4　試験終了時には、問題冊子の上に解答用紙を裏返して置きなさい。解答用紙の回収後は監督者の指示に従うこと。

5　問題冊子は持ち帰ること。

課題

以下の文を読み、問いに答えなさい。

目の前の方との関係をさらに良くしていく為には、相互理解を高めていく必要があります。一方通行ではうまく進みません。「伝える」事によって、相手には伝わる様になるでしょう。ですが、「伝わる事」と「相手が動く事」は、まったくの別物です。

目の前の方が動いてくれないのはなぜか。それは、心が動いていないからです。そしてその心を動かす為には何が必要なのか。高圧的な指示や命令ではなく、目の前の方が自らの想いに気づく事です。そしてそれを実現する事ができるのが傾聴です。一時的なてっとり早さを求めていると、聴く事を軽んじてしまいます。すなわち、相手の意見を軽んじている、もっと言うなら、相手を軽んじているとも言えます。傾聴を実現するには、スキルだけではなく、心を整えておく事が大切です。（中略）

傾聴力を高める事で、何が得られるのか。カンタンに言うなら、相手が気づいていない気持ちに気づかせる事ができる、という事です。そしてこれが目の前の方の主体性を生み出します。もし傾聴の目的を「相手を気分よくさせる事」のように捉えてしまっていると、聴く意識がさほどない状態で相手の言葉を何となく聴くだけに留まってしまいます。目の前の方は、内省によって自分の気持ちを言語化しながら話す事により自分の心に気づいていき、それが内発的動機付けという結果を生み出します。

傾聴時の主役は、目の前の方でしかありません。にもかかわらず、聴き手である自分の目的を達する為に聴こうという想いが強すぎると、充分な傾聴を行わずして、自分にとって都合の良い事だけを聴こうとしてしまいます。そうなると、目の前の方は誘導されている感覚を得てしまいます。目の前の方が主役だ、というコミュニケーションを取る様にすると、さらに良好な関係を構築する事ができる様になります。（中略）

傾聴とは、「耳」「目」そして「心」を活用したコミュニケーションです。耳だけではもちろん十分ではありませんし、耳と目だけでも十分とは言えません。心も通わせながら聴いていると「なぜ今、その様な言葉を通して表現したのだろうか？」という疑問が生まれてくる事もあります。五感を通して聴く事で、相手の状況をより深く理解する事ができます。（中略）

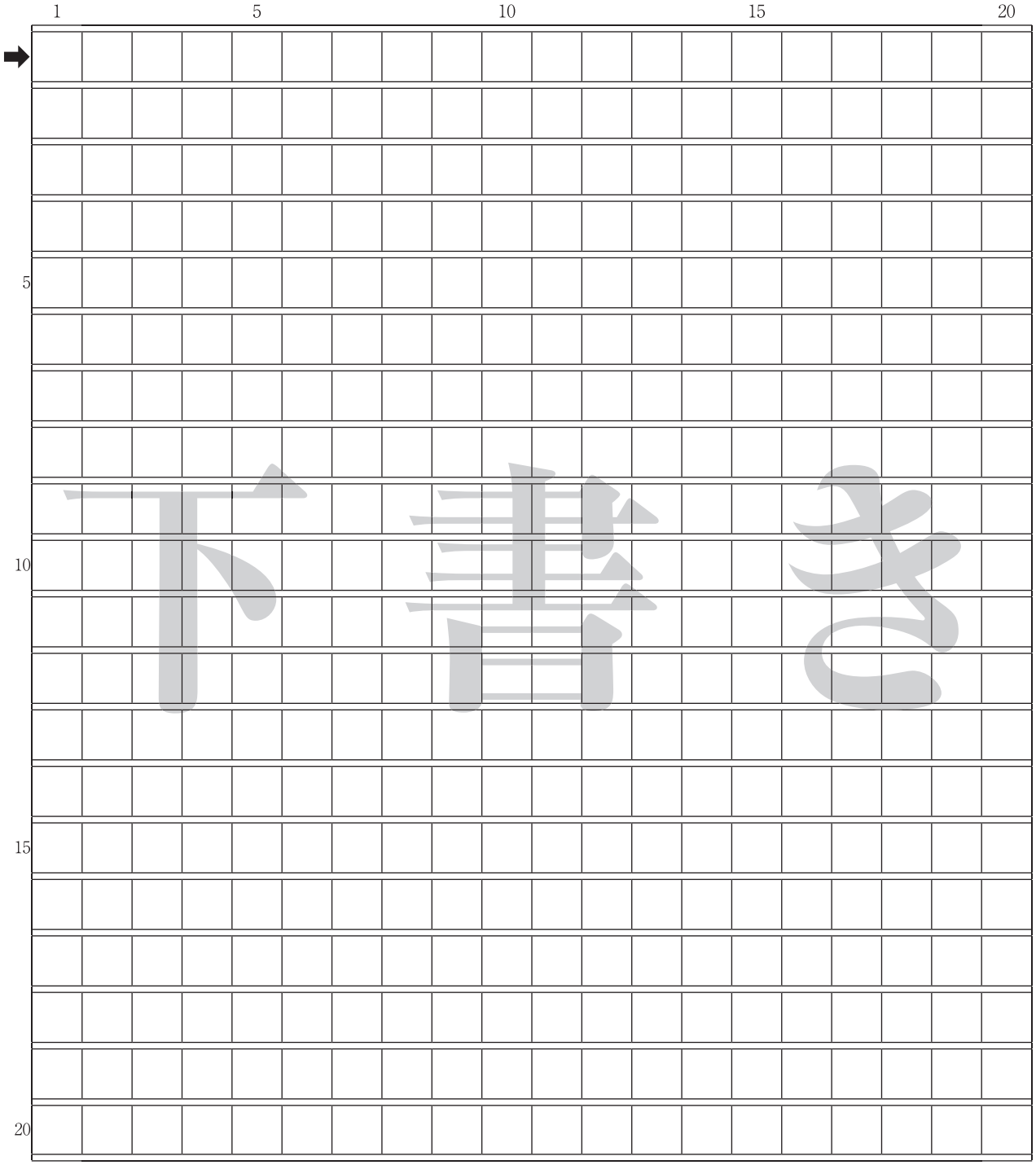
相手を理解するためには、相手が話している内容を正確に把握するだけではなく、相手の気持ちもわかってあげようとする事が大切です（事実と解釈の２点です）。自分の価値観軸で考えずに、相手の立場に立って、相手の状況や感情を理解しようとする必要があります。共感が大切です。

出典：林田康裕著『人を動かす傾聴力』2024 年　ぱる出版より抜粋

問題　著者が述べていることを踏まえ、医療専門職としての「傾聴力」について、あなたの考えを 400 字以内で述べなさい。

下 書 き 用 紙

（下の矢印から横書きではじめること。）



（20×20）　　（400 字）